

統計データから見た 沖縄の農林水産業



統計の 確かな情報 大きな安心

平成29年10月

内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課

はじめに

この小冊子は、10月18日の「統計の日」にちなんで、当課が毎年開催している「統計データから見た沖縄の農林水産業～「消費者の部屋」特別展示～」において、沖縄県の農林水産業の現状について、分かりやすくグラフ等で紹介するための資料として、最新の農林水産統計調査の結果を用いて作成したものです。

10月18日は『統計の日』

～我が国における近代統計の始まり～

我が国最初の近代的統計である「府県物産表」（農林水産物や鉱業生産物の生産高をまとめたもの）に関する太政官布告の公布日が10月18日（明治3年9月24日（太陰暦）が現行の太陽暦では10月18日にあたる。）であることから、国民の統計に対する関心と理解が深まり、国や地方公共団体などが実施する統計調査へより一層の協力が得られることを目的として、10月18日を「統計の日」と定めたものです。

利用者のために

- 1 統計数値は、原則として下表の基準によりラウンド(四捨五入)したため、計と内訳が一致しない場合があります

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (千)	3 桁以下 (百)
ラウンド する 桁 (下から)		3 桁	2 桁	2 桁	1 桁	ラウンド し ない
例	ラウンドする 前 の 数 値	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
	ラウンド し た 数 値	1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

- 2 統計表中に使った記号は、次のとおりです。

「－」 事実のないもの
「…」 事実不詳又は調査を欠くもの
「0」 単位に満たないもの
「△」 負数又は減少(下落)したもの
「x」 秘密保護上統計数値を公表しないもの
「…」 未発表のもの



このマークは、統計法に基づく国の統計調査であることを示し、調査票情報の秘密保護に万全を期すことをお約束するものです。

目 次

1	沖縄県の概況	1
2	農家数、農業就業人口及び耕作放棄地面積	2
3	耕地面積	3
4	水稻の作付面積及び収穫量	4
5	さとうきびの収穫面積及び収穫量	5
6	野菜の作付面積、収穫量及び出荷量	6
7	パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量	7
8	花き(切り花類)の作付面積及び出荷量	8
9	家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数	9
10	個別経営(販売農家)の農業経営収支	11
11	さとうきび生産費	12
12	農業産出額	13
13	青果物の卸売数量及び卸売価格	15
14	林野面積・林家数及び林業産出額	16
15	漁業生産量及び漁業産出額	17
付録	沖縄の農林漁業主要指標	18

1 沖縄県の概況

■面積、人口、総生産等

【面積】

総土地面積	228,100ha
耕地面積	38,200ha
水田面積	838ha
林野面積	111,196ha

【人口・就業者数】

総人口	1,433,566人
男性人口	704,619人
女性人口	728,947人

総就業者数	578,638人
第1次産業就業者数	28,713人
第2次産業就業者数	81,142人
第3次産業就業者数	418,321人

【世帯数】

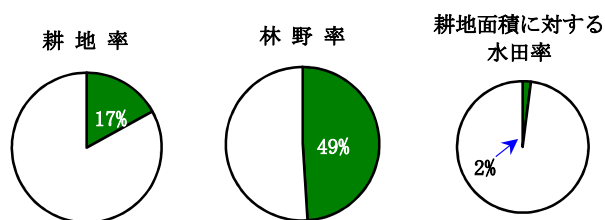
総世帯数	560,424世帯
総農家数	20,056戸
林家数	397戸
漁業経営体数	2,616経営体

【総生産(平成25年度)】

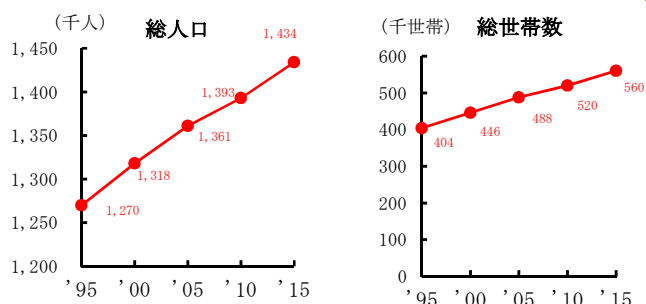
県内総生産	3兆8,818億円
農林水産業	595億円
鉱業	61億円
製造業	1,643億円
建設業	3,679億円
サービス業	10,270億円

1人当たり県民所得	213万円
1人当たり国民所得	287万円

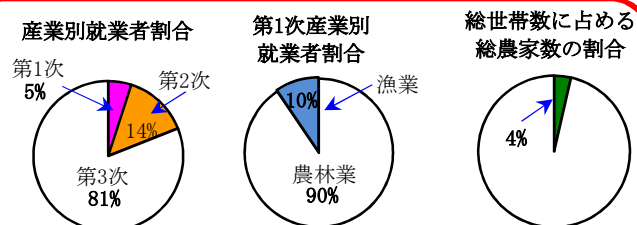
■面積



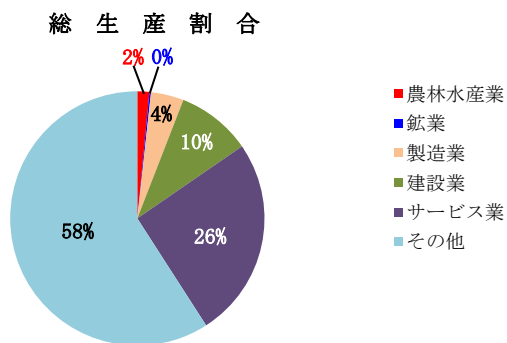
■総人口・総世帯数の動き



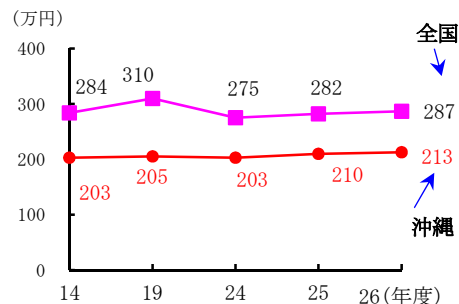
■就業者



■総生産



一人当たり所得



資料： 総土地面積は、国土地理院『平成27年全国都道府県市区町村別面積調』。林野面積、総農家数、林家数は、農林水産省大臣官房統計部『2015年農林業センサス』。耕地面積は、農林水産省大臣官房統計部『平成28年耕地面積調査』。人口、就業者数及び世帯数は、総務省統計局『平成27年国勢調査』。漁業経営体数(個人)は、農林水産省大臣官房統計部『2013年漁業センサス』。総生産は、内閣府『国民経済計算』、沖縄県『平成26年度県民経済計算(県民所得統計)』。

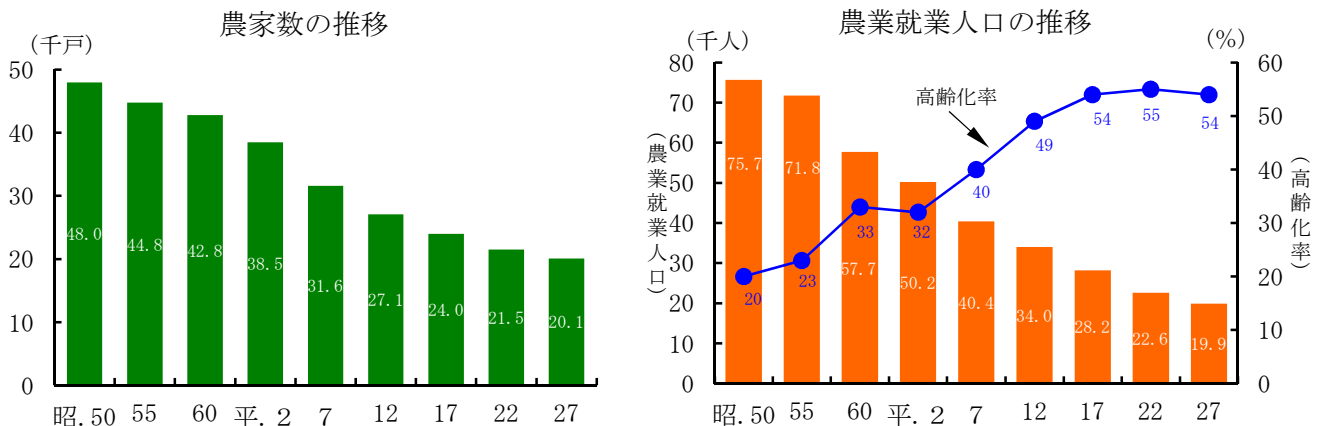
2 農家数、農業就業人口及び耕作放棄地面積

1 農家数及び農業就業人口 ―農家数及び農業就業人口はともに減少―

農家数は減少傾向で推移しており、平成27年は2万56戸で、昭和50年の4万8,018戸と比べて半数以下となっています。

農業生産を担う農業就業人口は年々減少を続け、平成27年は1万9,916人で、昭和50年の7万5,715人と比べて3割以下の水準となっています。

農業就業人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は、若年層の農業離れなどにより、平成22年55%、平成27年54%と半数以上を占めており、年々高齢化が進んでいます。



【農家数及び農業就業人口の推移】

単位：戸、人

区 分	昭. 50	55	60	平. 2	7	12	17	22	27
総 農 家 数	48,018	44,823	42,820	38,512	31,588	27,088	24,014	21,547	20,056
農業就業人口	75,715	71,814	57,670	50,191	40,363	34,005	28,224	22,575	19,916
うち、65歳以上	15,420	16,466	19,267	15,941	15,974	16,572	15,253	12,329	10,761
高齢化率(%)	20	23	33	32	40	49	54	55	54

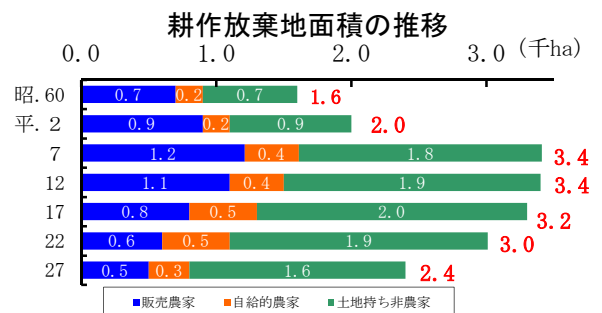
資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

2 耕作放棄地面積 ―平成12年から27年まで減少―

耕作放棄地面積は平成7年まで増加していましたが、平成12年から27年までの耕作放棄地面積は減少しています。

平成27年の耕作放棄地面積は2,445haで、平成12年の3,411haに比べて966ha(28%)減少しました。

これは、主に販売農家において耕作放棄地面積が減少したためです。



【農林業センサスからみた耕作放棄地面積の推移】

単位：ha

区 分	昭. 60	平. 2	7	12	17	22	27
計	1,555	1,977	3,424	3,411	3,240	2,994	2,445
販 売 農 家	696	872	1,248	1,080	780	634	513
自給的農家	176	237	381	443	494	455	343
土 地 持 ち 非 農 家	683	868	1,795	1,888	1,966	1,906	1,590

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

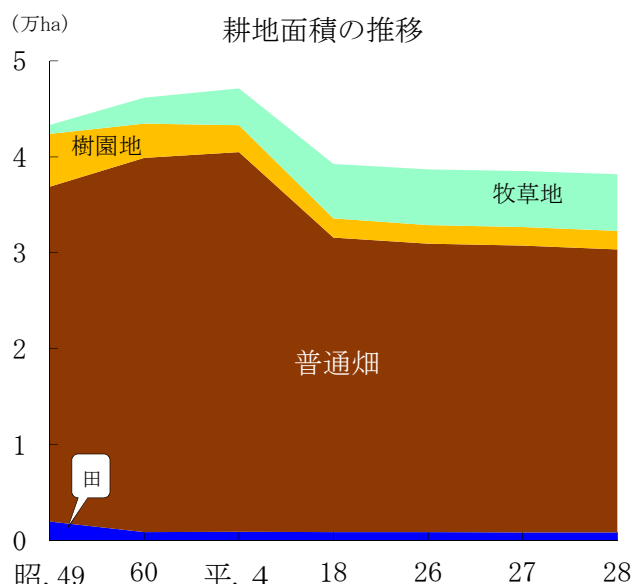
3 耕 地 面 積

— 畑が98%を占める —

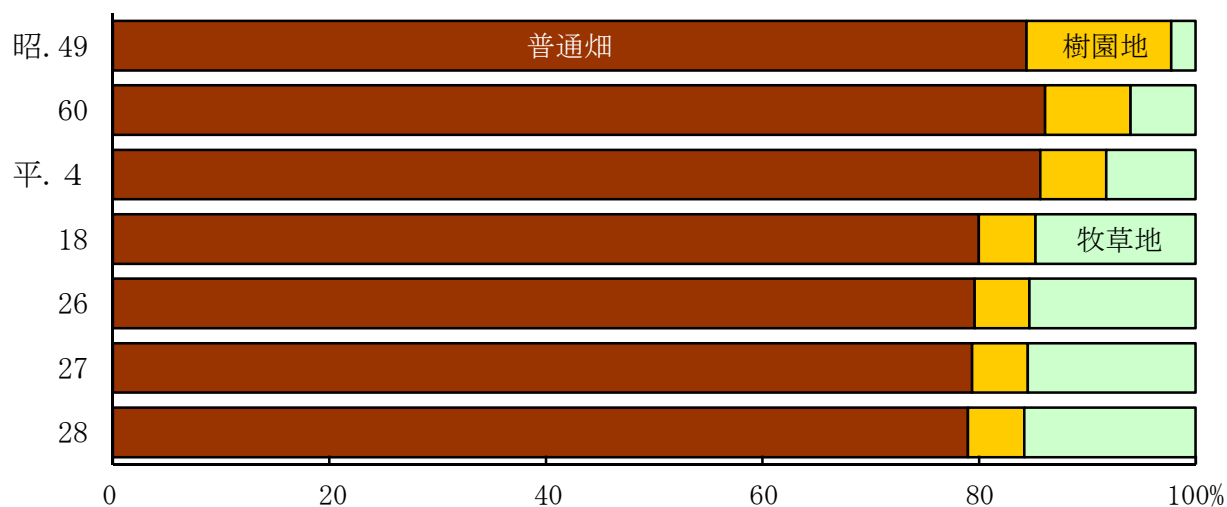
耕地面積は現行調査を開始した昭和49年以降、平成4年の4万7,100haをピークに減少傾向で推移しており、平成28年は3万8,200haで、昭和49年の約9割となっています。このうち畑が3万7,400haで全体の98%を占め、田は2%です。（全国の耕地面積に占める畑の割合は約46%です。）

畑を種類別にみると、普通畑が最も多く、樹園地は、パインアップルなどの減少により、平成28年は昭和49年の約35%となっています。

牧草地は、肉用牛の増加に伴い、平成28年は昭和49年の約6倍の増加となっています。



畑種類別構成比の推移



【耕地面積の推移】

単位：ha

区 分	昭. 49	60	平. 4	18	26	27	28
計	43,400	46,200	47,100	39,200	38,700	38,600	38,200
田	1,980	871	890	874	852	850	838
畑 計	41,400	45,300	46,200	38,400	37,800	37,700	37,400
普 通 畑	34,900	39,000	39,600	30,700	30,100	29,900	29,500
樹 園 地	5,520	3,580	2,810	2,000	1,910	1,940	1,940
牧 草 地	934	2,720	3,820	5,680	5,810	5,840	5,910

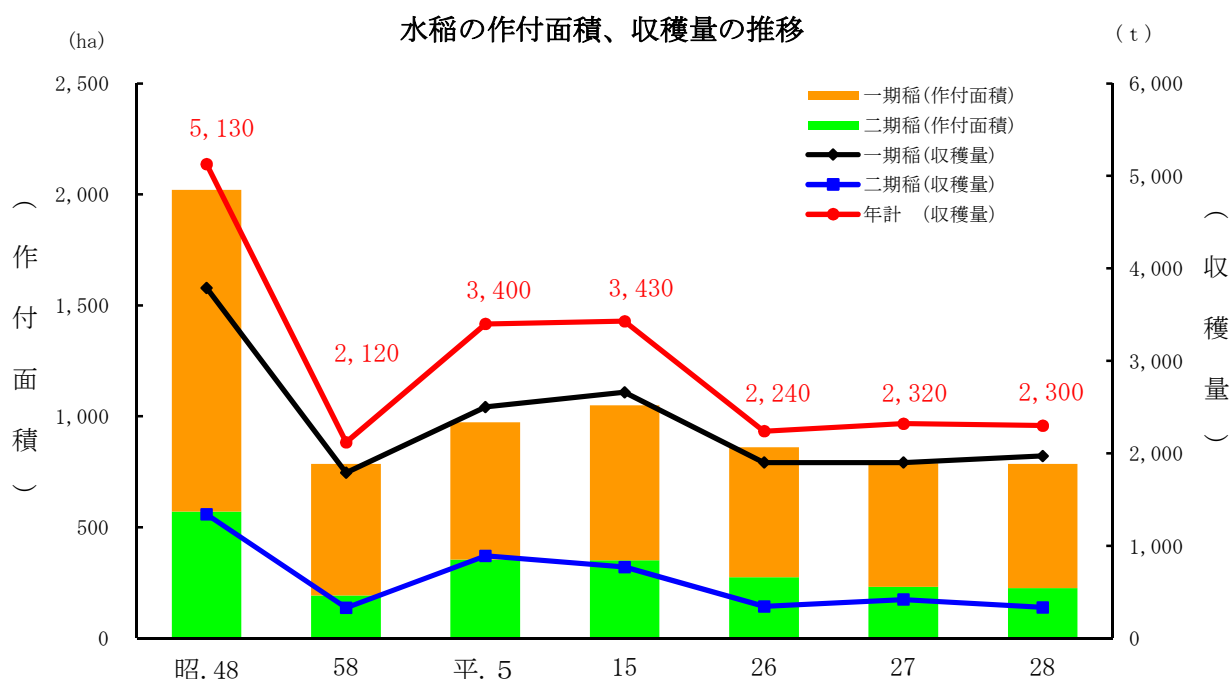
資料：農林水産省大臣官房統計部『耕地面積調査』

4 水稻の作付面積及び収穫量

－ 平成28年産 前年産より作付面積及び収穫量とも減少 －

平成28年産の水稻作付面積(一期稲・二期稲計)は785haで、前年産に比べて3ha(0%)減少し、収穫量(一期稲・二期稲計)は2,300tで、前年産に比べて20t(1%)減少しました。

また、復帰後の昭和48年産に比べると作付面積は1,235ha(61%)、収穫量は2,830t(55%)減少しています。これは、生産農家の高齢化による離農等があったためです。



【水稻の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量の推移】

単位 { 作付面積: ha
10 a 当たり収量: kg
収穫量: t

区分	作付面積			10 a 当たり収量			収穫量		
	一期稲	二期稲		一期稲	二期稲		一期稲	二期稲	
昭. 48	2,020	1,450	571	254	262	234	5,130	3,790	1,340
58	786	593	193	270	302	171	2,120	1,790	330
平. 5	973	619	354	349	404	252	3,400	2,500	891
15	1,050	698	351	327	381	219	3,430	2,660	769
26	860	586	274	261	325	125	2,240	1,900	343
27	788	556	232	294	342	180	2,320	1,900	418
28	785	560	225	293	351	148	2,300	1,970	333

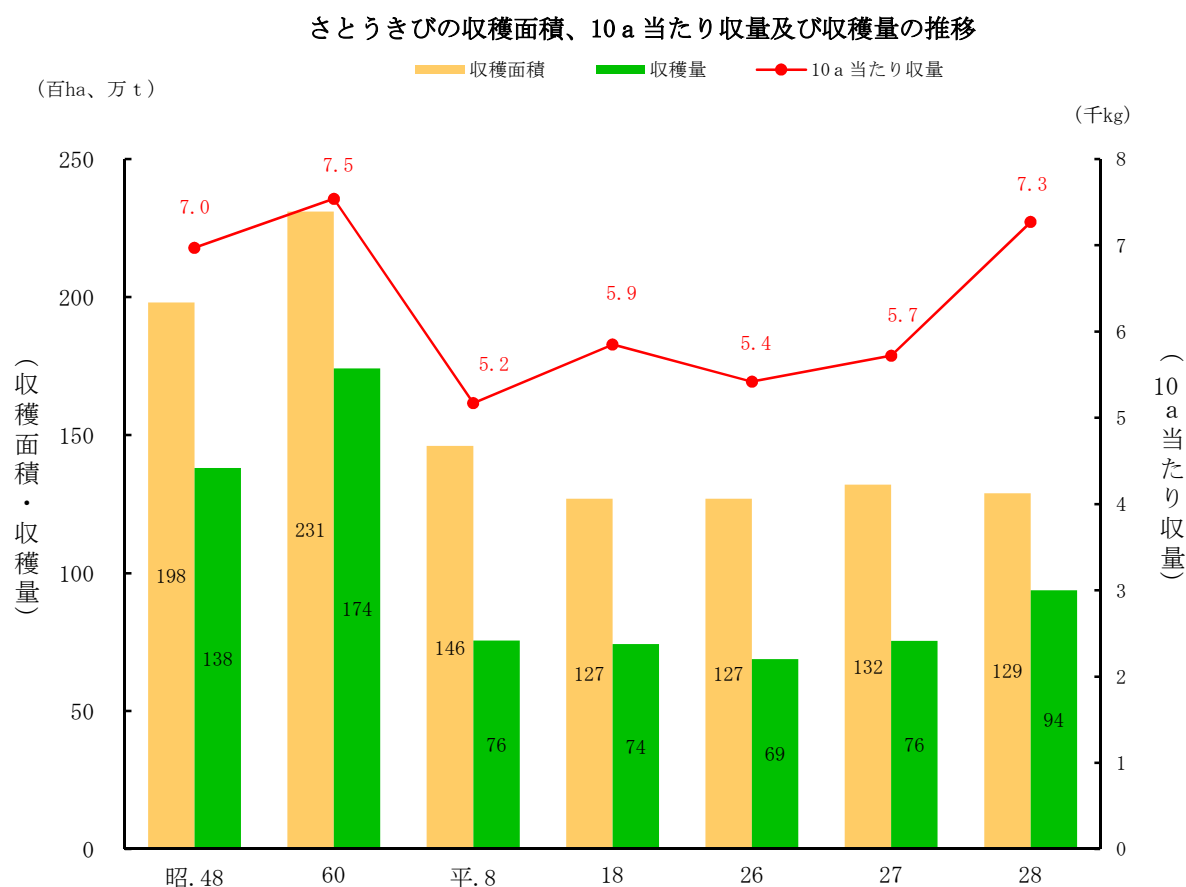
資料：農林水産省大臣官房統計部『水稻調査』

5 さとうきびの収穫面積及び収穫量

－ 平成28年産の収穫量は17年ぶりの90万トン超え －

さとうきびの収穫面積は、昭和60年産以降、減少傾向で推移しており、平成28年産の収穫面積は1万2,900haで、昭和48年産の約7割となっています。なお、前年産に比べると300ha(2%)減少していますが、これは、牧草等の他作物へ転換したことや栽培農家の高齢化による規模縮小等により減少したためです。

また、平成28年産の収穫量は93万7,800tで、17年ぶりの90万トン超えとなっています。これは、気象条件に恵まれたことや台風等の被害が軽微だったことから、順調に生育したためです。



【さとうきびの収穫面積、10a当たり収量及び収穫量の推移】

区 分	昭.48	60	平.8	18	26	27	28
収 穫 面 積	19,800	23,100	14,600	12,700	12,700	13,200	12,900
10a 当たり収量	6,970	7,540	5,170	5,850	5,420	5,720	7,270
収 穫 量	1,380,000	1,741,000	756,200	742,500	688,800	755,000	937,800

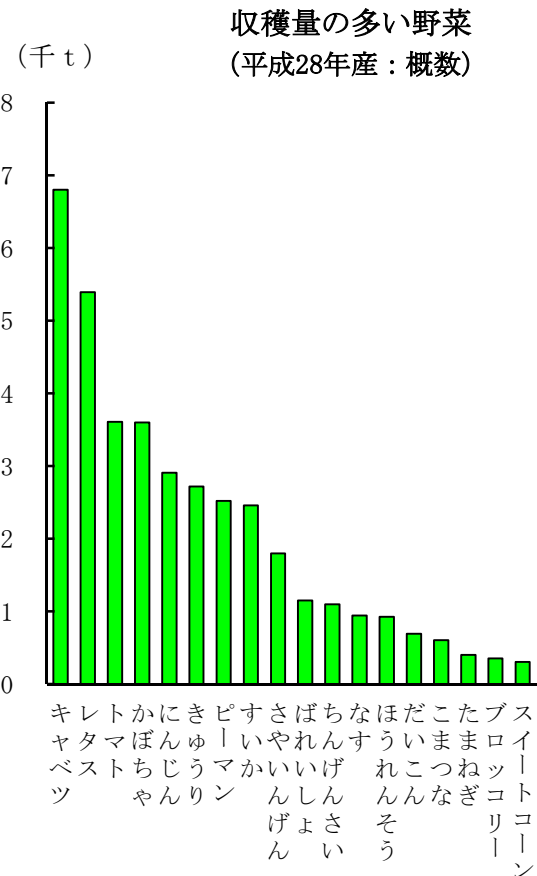
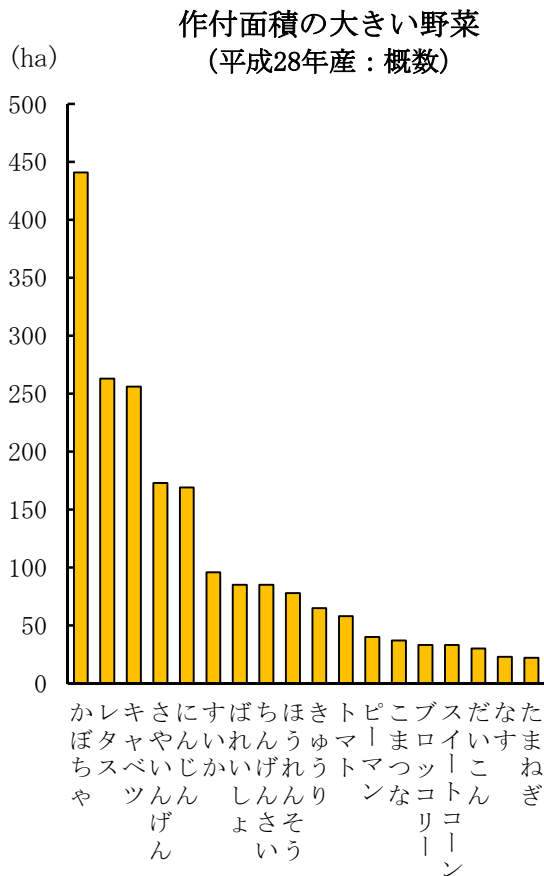
資料：農林水産省大臣官房統計部『甘味資源作物調査』

注：昭和48年産データは沖縄県農林水産部『さとうきび及び甘しゃ糖生産実績』

6 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

ー かぼちやが作付面積で1位、キャベツが収穫量で1位 ー

平成28年産野菜調査の調査品目のうち、作付面積はかぼちやが1位で441ha、次いでレタス263ha、キャベツ256haの順となっています。収穫量ではキャベツが1位で6,800t、次いでレタス5,390t、トマト3,610tの順となっています。



【平成28年産主要野菜の作付面積、収穫量及び出荷量（概数）】

品 目	作付面積	収穫量	出荷量	品 目	作付面積	収穫量	出荷量
	ha	t	t		ha	t	t
だ い こ ん	30	694	495	ト マ ト	58	3,610	3,190
に ん じ ん	169	2,910	2,390	う ち、ミ ー ト マ ト	11	399	353
ば れ い し ょ	85	1,150	920	ピ ー マ ン	40	2,520	2,170
キ ャ ベ ツ	256	6,800	5,710	こ ま つ な	37	606	503
ほうれんそう	78	928	686	ち ん げ ん さ い	85	1,100	895
レ タ ス	263	5,390	4,540	ブ ロ ッ コ リ ー	33	354	261
うち、サラダ菜	9	99	79	か ぼ ち や	441	3,600	3,200
た ま ね ぎ	22	403	346	ス イ ー ト コ ー ン	33	304	242
き ゆ う り	65	2,720	2,320	さ や い ん げ ん	173	1,800	1,600
な す	23	944	802	す い か	96	2,460	2,200

資料：農林水産省大臣官房統計部『野菜生産出荷統計』

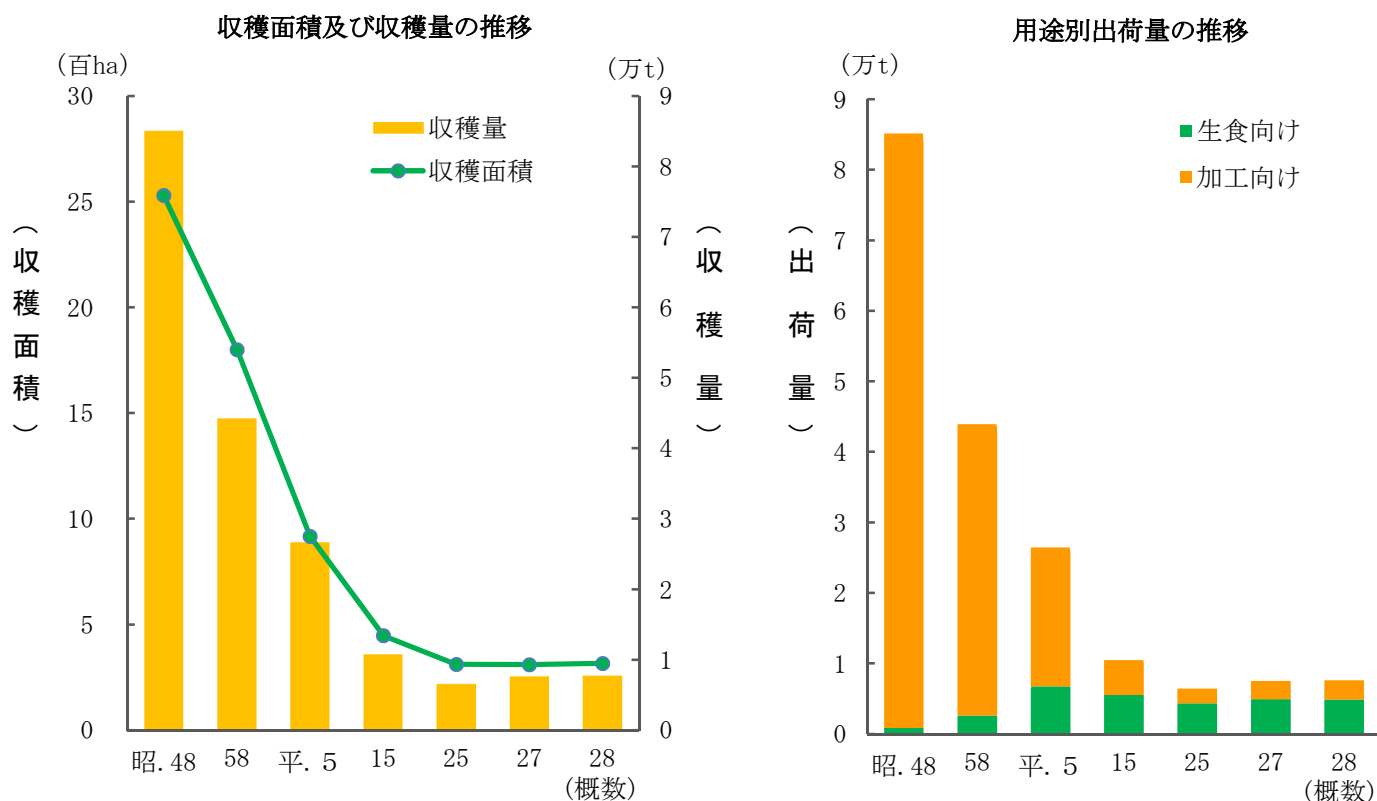
7 パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量

－ 収穫面積は2年連続増加、収穫量も増加傾向 －

復帰後は昭和48年産をピークに、安価な外国産パインアップルの輸入増加やパインアップル缶詰の輸入自由化の影響に伴う生産農家数の減少等により収穫面積及び収穫量とも減少傾向にありましたが、平成28年産の収穫面積は沖縄本島において加工向けの増産推進のため作付けの拡大が図られてきたこと等により2年連続で増加しました。また、収穫量は、収穫面積が増加したこと及び作柄がおおむね良好であったことにより平成25年産から4年連続で増加しました。

平成28年産の収穫面積は316haで、前年産に比べ6ha(2%)増加しました。また、収穫量は7,770t、出荷量は7,580tで、前年産に比べ、それぞれ110t(1%)、80t(1%)増加しました。

出荷量を用途別にみると、生食向けは4,880tで前年産並みとなり、加工向けは2,560tで、前年産に比べ100t(4%)増加しました。



【パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量の推移】

単位 { 収穫面積 : ha
収穫量・出荷量 : t

区分	昭. 48年産	58	平. 5	15	25	27	28 (概数)
収 穫 面 積	2,530	1,800	917	448	311	310	316
収 穫 量	85,100	44,300	26,700	10,800	6,590	7,660	7,770
出 荷 量	85,100	43,900	26,500	10,500	6,410	7,500	7,580
うち、生食向け	835	2,600	6,730	5,500	4,310	4,900	4,880
うち、加工向け	84,300	41,300	19,700	4,960	2,100	2,600	2,700

資料：農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』

注：昭和48年産の収穫面積は、便宜上、12月現在における植え付け後2年以上の栽培面積を計上している。

8 花き(切り花類)の作付面積及び出荷量

－ 平成28年産花き(切り花類)の出荷量は前年よりやや減少 －

切り花類は、昭和51年産以降増加傾向で推移しましたが、近年は概ね横ばいで推移し、平成28年産の作付面積は973haで、前年産に比べて58ha(6%)減少しました。

主な品目別に作付面積割合をみると、きくが81%、洋ラン類が2%、その他切り花が17%となっています。

また、平成28年産の出荷量は3億2,330万本で、前年産に比べて1,720万本(5%)減少しました。

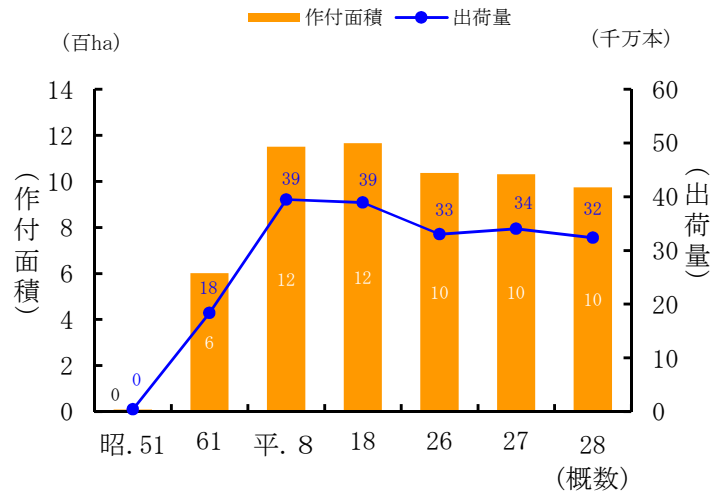
① きく

きくの作付面積の推移をみると、近年は概ね横ばいで推移しており、平成28年産の作付面積は789haで、前年産に比べて38ha(5%)、出荷量は2億7,960万本で、前年産に比べて2,070万本(7%)それぞれ減少しました。

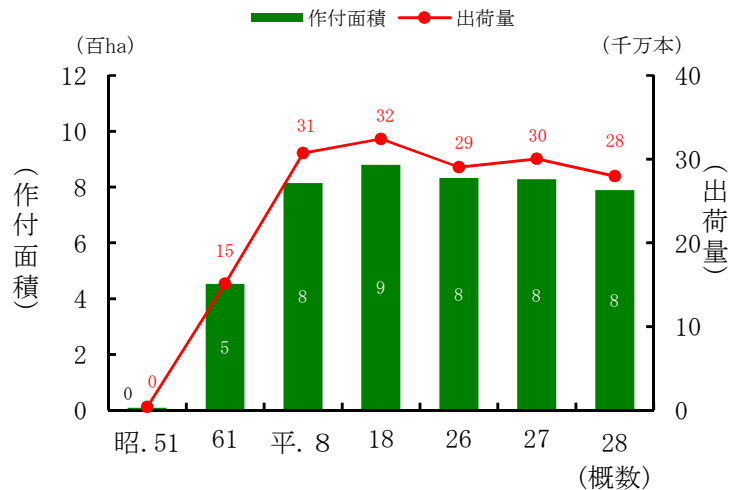
② 洋ラン類

洋ラン類の平成28年産の作付面積は15haで前年産に比べ40a(3%)、出荷量は153万本で、前年産に比べて18万本(11%)それぞれ減少しました。

切り花類の作付面積及び出荷量の推移



きくの作付面積及び出荷量の推移



【花き(切り花類)の作付面積及び出荷量の推移】

区 分	切り花類計		き く		洋ラン類		その他の切り花	
	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
昭. 51	900	4,150	800	4,000	-	-	100	151
61	60,100	183,600	45,200	151,300	1,300	1,580	13,600	30,720
平. 8	115,000	394,600	81,400	307,200	4,900	7,690	28,700	79,710
18	116,500	388,900	87,900	324,100	3,020	3,280	25,580	61,520
26	103,600	330,300	83,200	290,500	1,740	1,520	18,660	38,280
27	103,100	340,500	82,700	300,300	1,580	1,710	18,820	38,490
28 (概数)	97,300	323,300	78,900	279,600	1,540	1,530	16,860	42,170

資料：農林水産省大臣官房統計部『花き調査』

9 家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数

1 乳用牛 ー飼養戸数が減少、大規模化が進むー

乳用牛の平成29年の飼養戸数は73戸で、前年に比べて1戸(1%)減少しています。昭和48年と比べると247戸の減少となっています。

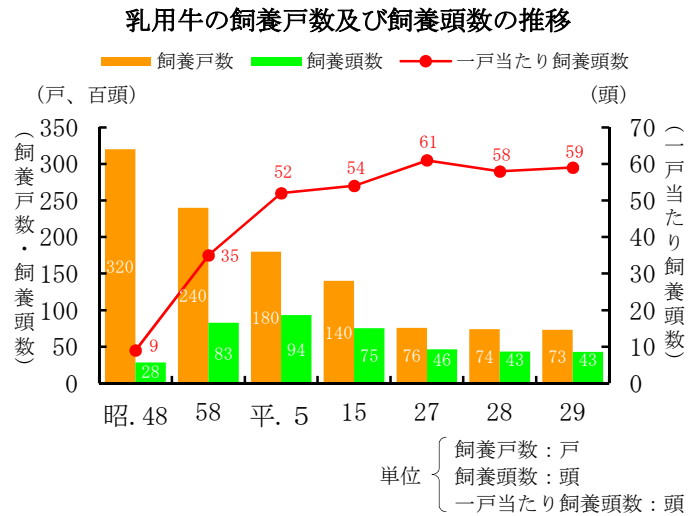
また、平成29年の飼養頭数は4,310頭で、前年に比べて10頭減少しました。昭和48年と比べると約1.5倍に増加しています。

この結果、一戸当たりの飼養頭数は59頭で、昭和48年の約7倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

【乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	27	28	29
飼 養 戸 数	320	240	180	140	76	74	73
飼 養 頭 数	2,840	8,280	9,350	7,530	4,630	4,320	4,310
一戸当たり飼養頭数	9	35	52	54	61	58	59

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』



2 肉用牛 ー飼養戸数が減少、大規模化が進むー

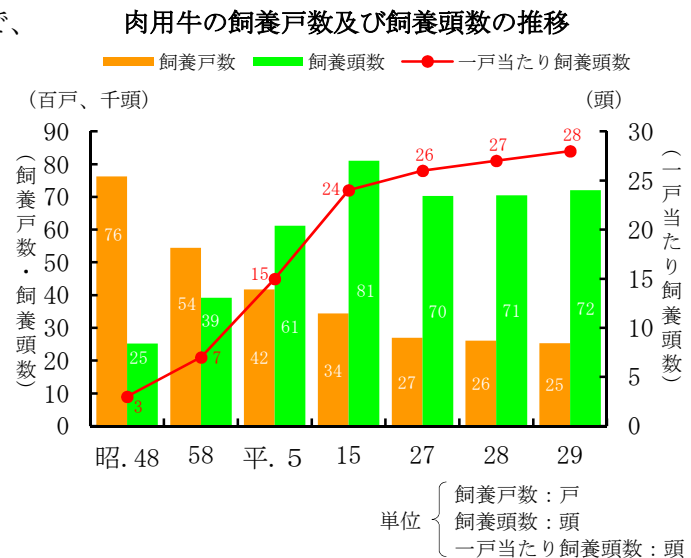
肉用牛の平成29年の飼養戸数は2,530戸で、前年に比べて80戸(3%)減少しています。昭和48年と比べると農家の高齢化による離農等のため大幅に減少しています。

また、平成29年の飼養頭数は7万2,000頭で前年に比べて1,500頭(2%)増加しました。昭和48年と比べると約3倍に増加していますが、これは、補助事業等による飼料生産基盤や施設・設備の整備等が主な要因です。この結果、一戸当たりの飼養頭数は28頭で、昭和48年の約9倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

【肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	27	28	29
飼 養 戸 数	7,620	5,440	4,170	3,440	2,700	2,610	2,530
飼 養 頭 数	25,200	39,200	61,200	81,000	70,300	70,500	72,000
一戸当たり飼養頭数	3	7	15	24	26	27	28

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』



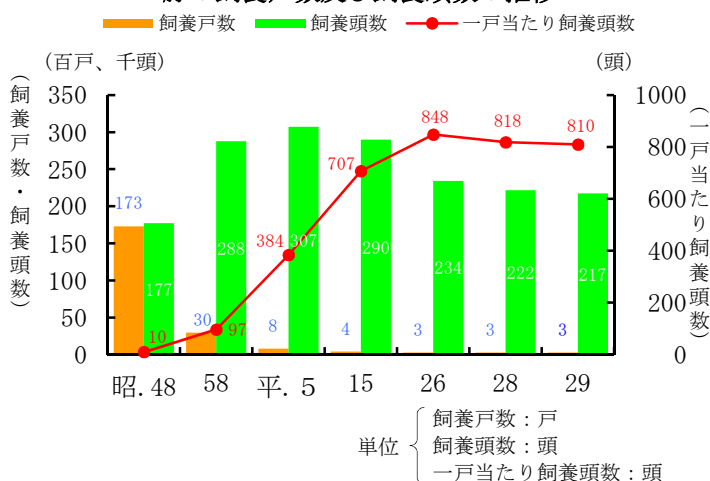
3 豚 ー飼養戸数が減少、大規模化が進むー

豚の平成29年の飼養戸数は268戸で、前年に比べて3戸(1%)減少しており、昭和48年と比べると大幅な減少となっています。

また、平成29年の飼養頭数は21万7,200頭で、前年に比べて4,500頭(2%)減少しました。これを、昭和48年と比べると、4万200頭(23%)増加しています。

この結果、一戸当たり飼養頭数は810頭で、昭和48年の81倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	26	28	29
飼 養 戸 数	17,300	2,970	800	410	276	271	268
飼 養 頭 数	177,000	287,900	307,000	289,700	234,000	221,700	217,200
一戸当たり飼養頭数	10	97	384	707	848	818	810

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

注：平成27年は、2015年農林業センサス実施年のため調査を休止した。

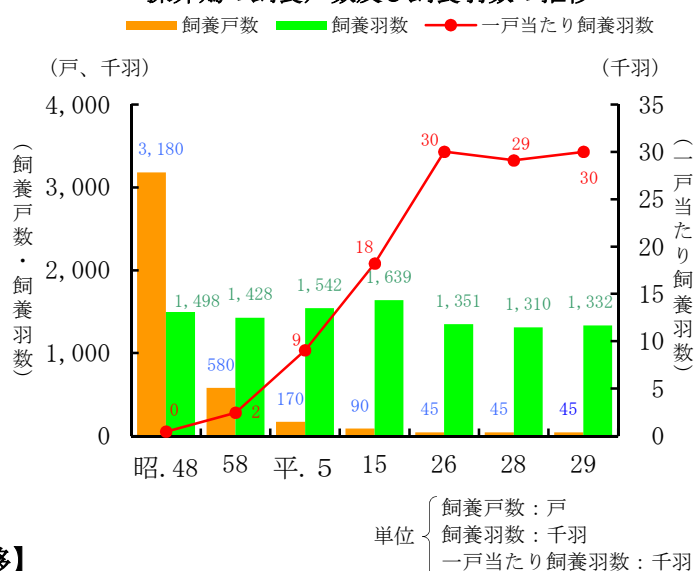
4 採卵鶏 ー飼養戸数が減少、大規模化が進むー

採卵鶏の平成29年の飼養戸数(種鶏のみの飼養者及び成鶏めす1,000羽未満の飼養者は除く。)は45戸で、前年並みとなり、昭和48年と比べると大幅に減少しています。

平成29年の飼養羽数(種鶏を除く)は133万2,000羽で、前年に比べて2万2,000羽(2%)増加しており、昭和48年と比べると16万6,000羽(11%)減少しています。

なお、一戸当たり飼養羽数は3万羽で昭和48年に比べると増加しており、大規模化が進んでいます。

採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移



【採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	26	28	29
飼 養 戸 数	3,180	580	170	90	45	45	45
飼 養 羽 数	1,498	1,428	1,542	1,639	1,351	1,310	1,332
一戸当たり飼養羽数	0	2	9	18	30	29	30

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

注1：平成27年は、2015年農林業センサス実施年のため調査を休止した。

2：平成5年は成鶏めす羽数300羽未満の飼養者を除く、平成15年以降は1,000羽未満を除く、昭和58年以前は全数調査。

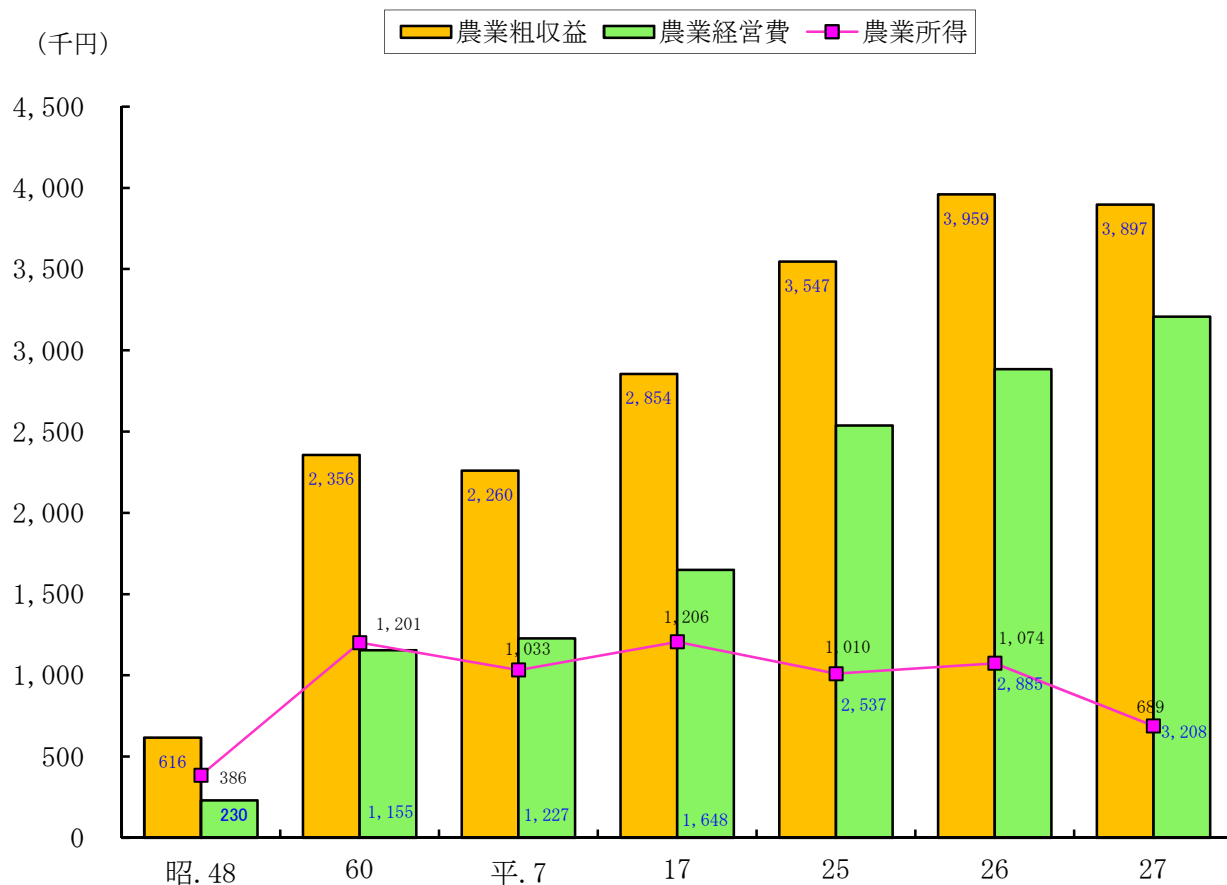
10 個別経営（販売農家）の農業経営収支

－ 平成27年の農業経営収支は前年に比べ減少

農業所得（農業粗収益－農業経営費）の推移をみると、昭和48年は38万6千円でしたが、昭和60年には120万1千円となり約3倍増加しました。それ以降はおおむね横ばいで推移しています。

平成27年については、農業粗収益はおおむね横ばいですが、高齢化にともない、雇用労賃、賃借料・作業委託料等が増加したため農業経営費も増加し、農業所得が減少しました。

農業粗収益・農業経営費・農業所得の推移（沖縄）



【農業粗収益・農業経営費・農業所得の推移】

単位：千円

区 分	昭. 48	60	平. 7	17	25	26	27
農 業 粗 収 益	616	2,356	2,260	2,854	3,547	3,959	3,897
農 業 経 営 費	231	1,155	1,227	1,648	2,537	2,885	3,208
農 業 所 得	386	1,201	1,033	1,206	1,010	1,074	689
農 業 所 得 (全 国)	742	1,066	1,442	1,235	1,321	1,186	1,527

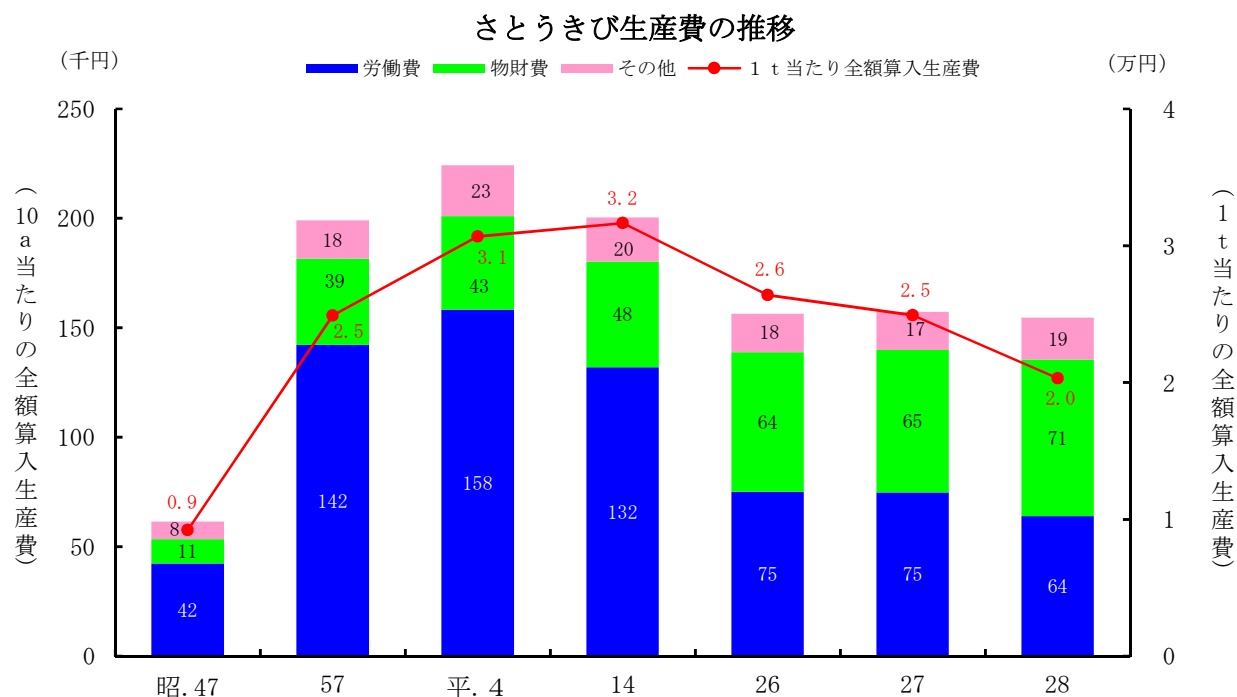
資料：農林水産省大臣官房統計部平成5年まで『農家経済調査』、平成15年から『農業経営統計調査』

11 さとうきび生産費

－ 平成28年産は前年産に比べやや減少 －

平成28年産さとうきびの10 a 当たり生産費(全額算入生産費)は15万4,614円で、前年産に比べて2,564円(2%)減少となっており、労働費は減少、物財費は増加となっています。

1 t 当たりでみると、10 a 当たり収量が7,614kgと前年収量を1,305kg(21%)上回ったことから生産費(全額算入生産費)は2万308円で、前年産に比べて4,608円(19%)減少しています。



【さとうきび生産費の推移】

単位 { 金額: 円
収量: kg

区 分		昭. 47	57	平. 4	14	26	27	28
10 a 当たり	資本金・地代全額算入生産費	61,378	198,979	224,244	200,327	156,353	157,178	154,614
	支払利・地代算入生産費	53,377	181,458	202,973	183,644	144,405	146,630	140,834
	生産費(副産物価額差引)	53,377	181,458	201,005	180,165	138,767	139,773	135,467
	労働費	42,334	142,102	158,184	131,917	75,087	74,759	63,970
	物財費	11,043	39,356	42,821	48,248	63,680	65,014	71,497
	収 量	6,661	7,994	7,312	6,329	5,923	6,309	7,614
1 t 当たり	資本金・地代全額算入生産費	9,216	24,893	30,667	31,653	26,397	24,916	20,308
	支払利・地代算入生産費	8,015	22,701	27,758	29,017	24,379	23,243	18,498
	生産費(副産物価額差引)	8,015	22,701	27,488	28,467	23,427	22,157	17,793
	労働費	6,356	17,777	21,633	20,844	12,677	11,850	8,401
	物財費	1,659	4,924	5,855	7,623	10,750	10,307	9,392

資料: 農林水産省大臣官房統計部『農業経営統計調査 さとうきび生産費統計』

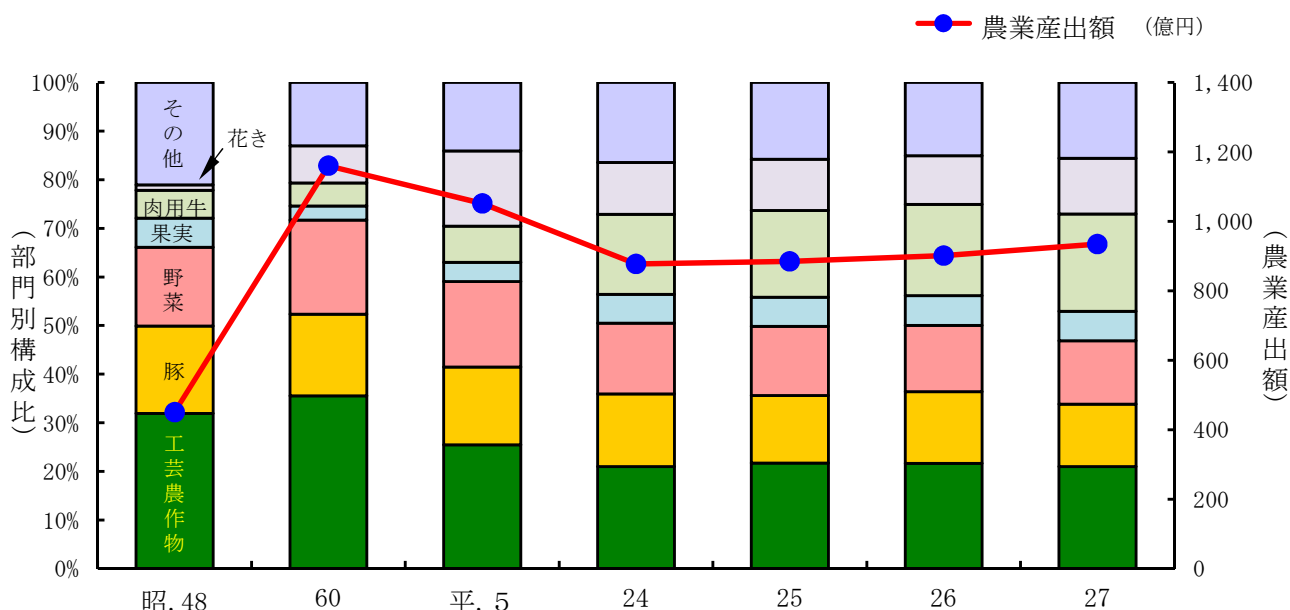
12 農 業 産 出 額

1

－4年連続で増加し、935億円となった。－

平成27年農業産出額は935億円で、前年の901億円に比べ34億円（4％）増加しました。
 要因としましては、野菜と豚が減少したものの、肉用牛、花き等が増加しており、これは、全国的な子牛不足を背景にした子牛価格の高値取引が続いていること、花きにおいては、台風被害が少なく収穫量が増加したことによるものです。
 また、農業産出額を部門別にみると、耕種部門は508億円で、前年に比べ18億円（4％）増加しました。畜産部門は426億円で、前年に比べて15億円（4％）の増加となりました。
 平成27年の農業産出額に占める部門別構成割合は、肉用牛が20％と最も高く、次にさとうきびが17％、豚が13％と続いています。

農業産出額及び部門別構成比の推移



【農業産出額及び構成比の推移】

単位：億円、（ ）は％

区 分	昭. 48	60	平. 5	24	25	26	27
農 業 産 出 額	451 (100)	1, 160 (100)	1, 052 (100)	877 (100)	885 (100)	901 (100)	935 (100)
耕 種 部 門	280 (62)	795 (69)	699 (66)	492 (56)	492 (56)	490 (54)	508 (54)
野 菜	73 (16)	225 (19)	185 (18)	128 (15)	126 (14)	123 (14)	122 (13)
果 実	27 (6)	33 (3)	42 (4)	52 (6)	53 (6)	55 (6)	57 (6)
花 き	5 (1)	89 (8)	163 (15)	94 (11)	93 (11)	90 (10)	107 (11)
工業農作物	144 (32)	412 (36)	268 (25)	184 (21)	192 (22)	195 (22)	196 (21)
うちさとうきび	138 (31)	374 (32)	221 (21)	146 (17)	151 (17)	153 (17)	162 (17)
畜 産 部 門	171 (38)	362 (31)	352 (33)	385 (44)	393 (44)	411 (46)	426 (46)
肉 用 牛	26 (6)	50 (4)	78 (7)	144 (16)	158 (18)	169 (19)	187 (20)
豚	81 (18)	195 (17)	168 (16)	131 (15)	123 (14)	133 (15)	120 (13)

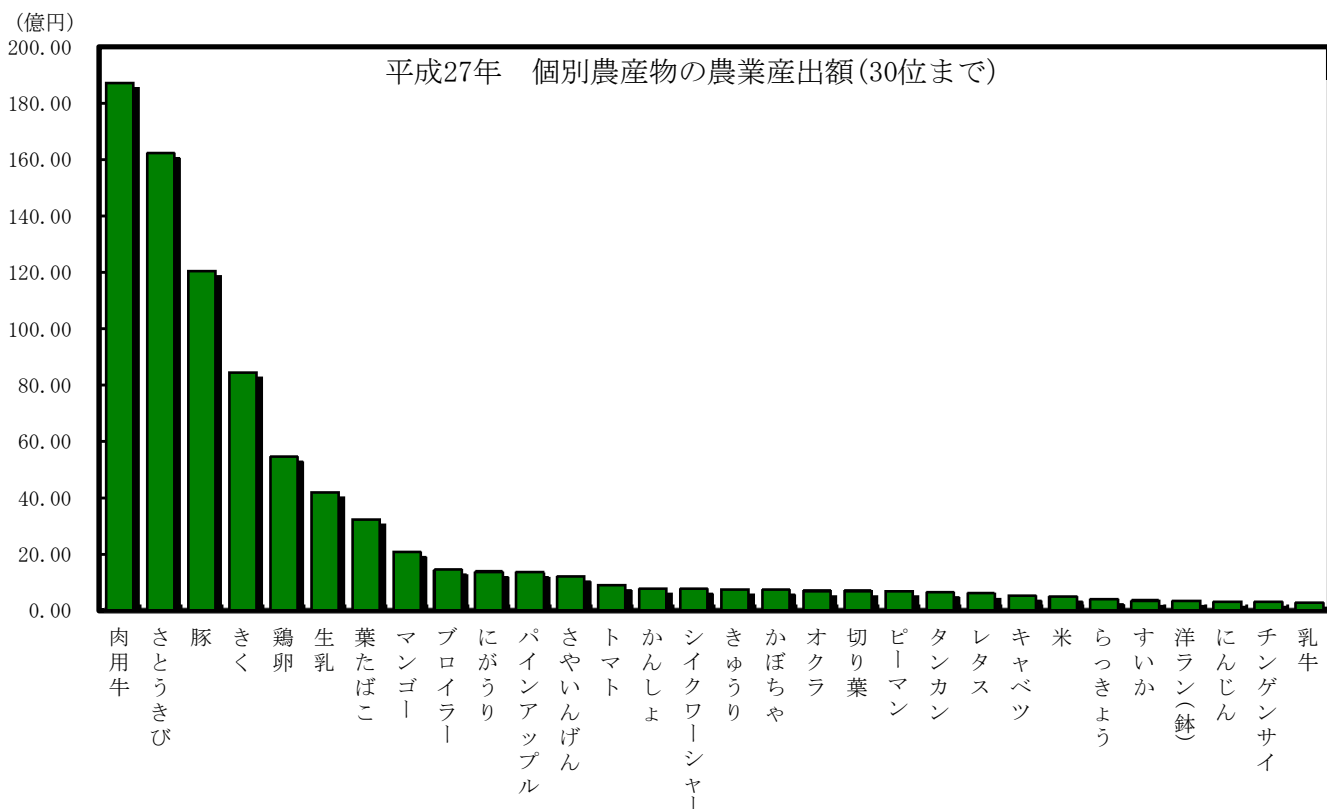
資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

2 個別農産物の農業産出額 ―上位10品目で約8割を占める―

平成27年の農業産出額を個別農産物別にみると、肉用牛が187億円、次いでさとうきび162億円、豚120億円、きく84億円、鶏卵55億円の順となっています。

肉用牛からにがうりまでの上位10品目で農業産出額全体の約8割を占めています。

なお、昭和48年の個別農産物の農業産出額は、さとうきびが138億円、次いで豚81億円、鶏卵35億円、肉用牛26億円、パイナップル26億円の順でした。



【平成27年個別農産物の順位と農業産出額】

単位：億円

順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額
1 (4)	肉用牛	187 (26)	11 (5)	パイナップル	14 (26)	21 (…)	タンカン	7 (…)
2 (1)	さとうきび	162 (138)	12 (25)	さやいんげん	12 (2)	22 (24)	レタス	6 (2)
3 (2)	豚	120 (81)	13 (26)	トマト	9 (2)	23 (7)	キャベツ	5 (10)
4 (31)	きく	84 (1)	14 (14)	かんしょ	8 (5)	24 (9)	米	5 (7)
5 (3)	鶏卵	55 (35)	15 (…)	シイクワシャー	8 (…)	25 (…)	らっきょう	4 (…)
6 (16)	生乳	42 (5)	16 (12)	きゅうり	8 (6)	26 (22)	すいか	4 (2)
7 (13)	葉たばこ	32 (5)	17 (28)	かぼちゃ	7 (2)	27 (…)	洋ラン(鉢)	4 (…)
8 (…)	マンゴー	21 (…)	18 (…)	オクラ	7 (…)	28 (10)	にんじん	3 (6)
9 (6)	ブロイラー	15 (16)	19 (…)	切り葉	7 (…)	29 (…)	チンゲンサイ	3 (…)
10 (11)	にがうり	14 (6)	20 (49)	ピーマン	7 (0)	30 (32)	乳牛	3 (1)

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

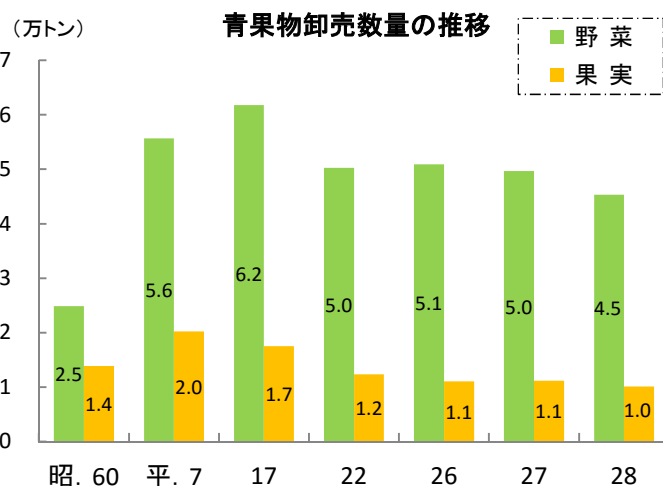
注：()書きは昭和48年の順位と農産物粗生産額です。

13 青果物の卸売数量及び卸売価格

1 卸売数量 — 近年は同水準で推移 —

沖縄県中央卸売市場における平成28年の野菜の卸売数量は4万5,296 tで、前年に比べて4,358 t (9%)減少、果実の卸売数量は1万99 tで前年に比べて1,029 t (9%)減少しました。

野菜は、昭和60年の2万4,850 tに比べて2万446 t (82%)増加し、果実は1万3,891 tに比べて3,792 t (27%)減少しました。野菜は、キャベツ、にんじん、たまねぎ、レタス等の入荷量が増加したこと。また、果実はみかん、バナナ等の入荷量が減少したことによるものです。



【卸売数量の推移】

単位：t

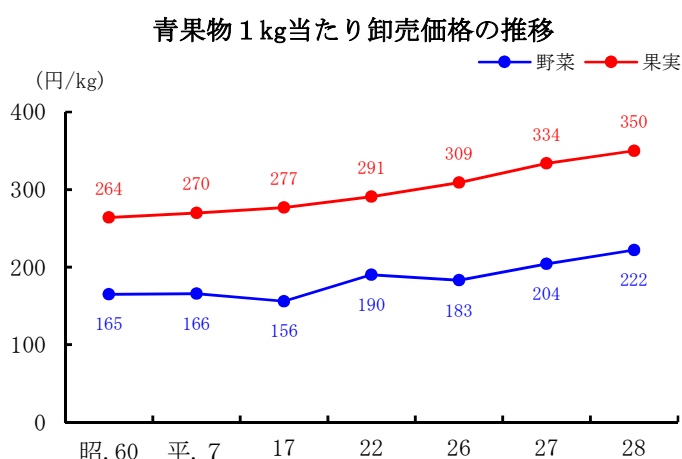
区 分	昭. 60	平. 7	17	22	26	27	28
野 菜	24,850	55,656	61,787	50,267	50,895	49,654	45,296
果 実	13,891	20,191	17,485	12,364	11,036	11,128	10,099

資料：農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注：28年は概数値

2 卸売価格 — 野菜、果実ともに前年に比べ上昇 —

平成28年の野菜の1 kg当たり卸売価格は222円で、前年に比べて18円 (9%)上昇し、昭和60年の165円に比べると57円 (35%)上昇しました。

また、平成28年の果実の1 kg当たり卸売価格は350円で、前年に比べて16円 (5%)、昭和60年の264円と比べても86円 (33%)上昇しました。



【卸売価格の推移】

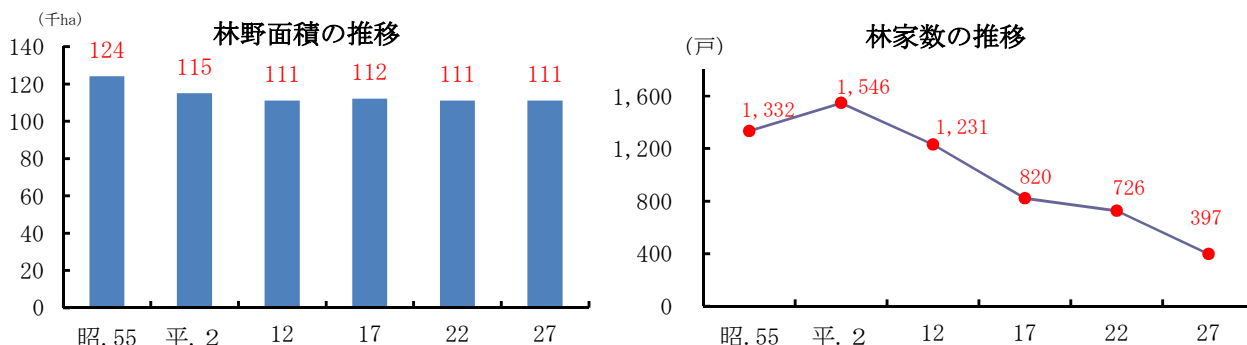
単位：円/kg当たり

区 分	昭. 60	平. 7	17	22	26	27	28
野 菜	165	166	156	190	183	204	222
果 実	264	270	277	291	309	334	350

資料：農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注：28年は概数値

14 林野面積・林家数及び林業産出額

1 林野面積及び林家数 — 林野面積及び林家数はともに減少 —



平成27年の林野面積は11万1千haで、10年前に比べて1千ha(1%)減少しました。
また、林家数は397戸で、5年前に比べて329戸(45%)減少しました。
これは、5ha未満の林家で減少したためです。

【林野面積及び林家数の推移】

単位：千ha、戸

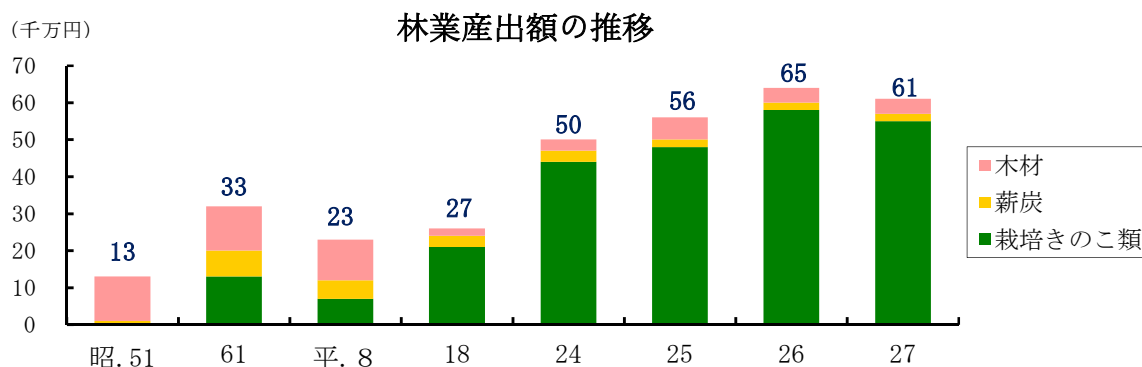
区 分	昭. 55	平. 2	12	17	22	27
林野面積	124	115	111	112	111	111
林 家 数	1,332	1,546	1,231	820	726	397

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

注：林家とは、保有山林面積が1ha以上ある世帯である林業事業体をいいます。

2 林業産出額 — 昨年より約4千万減少 —

平成27年の林業産出額6億1千万円で、前年に比べて4千万円(6%)減少しました。
これは、林業産出額のおよそ9割を占める栽培きのご類が減少したためです。
昭和51年の林業産出額と比べると約5倍の増加となっています。



【林業産出額の推移】

単位：千万円

区 分	昭. 51	61	平. 8	18	24	25	26	27
林 業 産 出 額	13	33	23	27	50	56	65	61
木 材	12	12	11	2	3	6	4	4
薪 炭	1	7	5	3	3	2	2	2
栽培きのご類	0	13	7	21	44	48	58	55

資料：農林水産省大臣官房統計部『林業産出額』

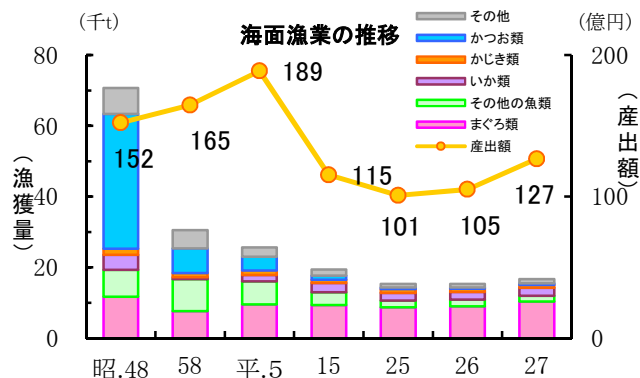
15 漁業生産量及び漁業産出額

1 海面漁業 —まぐろ類の漁獲量が第1位—

平成27年の結果を昭和48年と比べると漁獲量で約2割、産出額で約8割の水準となっています。

昭和48年の漁獲量のかつお類が5割を占めていました。これは、主に南方基地漁業による近海かつお一本釣によるものです。

近年は、まぐろ類の割合が高くなり、平成27年は約6割となっています。



【主要魚種別漁獲量及び産出額の推移】

単位：t、百万円

年次	漁獲量	まぐろ類	かじき類	かつお類	その他の魚類	いか類	産出額
昭.48	70,678	11,712	1,698	38,048	7,635	4,229	15,234
58	30,536	7,626	1,152	6,991	9,060	576	16,480
平.5	25,681	9,518	1,290	3,874	6,578	1,755	18,885
15	19,414	9,352	892	1,150	3,591	2,676	11,542
25	15,294	8,746	1,092	473	1,850	2,207	10,093
26	15,317	9,021	916	316	1,898	2,153	10,515
27	16,684	10,332	823	458	1,665	2,262	12,670

資料：農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

2 海面養殖業 —日本一のもずくの産地—

平成27年の結果を昭和48年と比べると、収穫量で1,445倍、産出額で206倍と大幅に増加しています。

これは、主に海面養殖業の9割以上を占めるもずく類において、昭和54年頃に養殖技術(ヒビ建て式養殖)が普及し、もずく養殖が盛んになり、全国シェアの99%を占める「日本一のもずく産地」になりました。

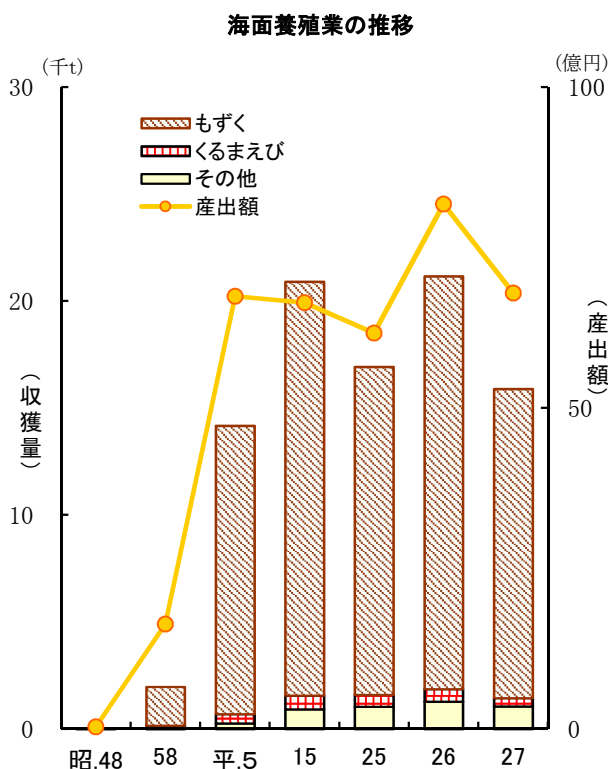
くるまえびの収穫量は、昭和48年以降堅調に推移し、平成27年の収穫量は昭和48年と比べると199倍と大幅に増加しています。

【主要魚種別収穫量及び産出額の推移】

単位：t、百万円

年次	収穫量	くるまえび	もずく類	産出額
昭.48	11	2	—	33
58	1,976	154	1,816	1,633
平.5	14,184	425	13,491	6,742
15	20,909	645	19,336	6,640
25	16,934	560	15,336	6,953
26	21,165	570	19,305	8,177
27	15,897	397	14,445	6,790

資料：農林水産省大臣官房統計部「海面漁業生産統計調査」、「漁業産出額」



沖縄の農林漁業主要指標

項 目		単位	数 値	全国からみた 沖縄の地位		時 点	資 料 出 所	
				シェア (%)	順位			
土 地	耕 地 面 積	ha	38,200	0.85	35	平成28年7月15日	耕 地 面 積 調 査	
	田	〃	838	0.03	46	〃	〃	
	畑	〃	37,400	1.83	12	〃	〃	
	林 野 面 積	〃	111,196	0.44	42	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
人 口 と 労 働 力	総 農 家 数	戸	20,056	0.93	46	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
	販 売 農 家 数	〃	14,241	1.07	42	〃	〃	
	専 業 農 家 数	〃	7,497	1.69	30	〃	〃	
	兼 業 農 家 数	〃	6,744	0.76	45	〃	〃	
	林 業 経 営 体 数	経営体	10	0.01	47	〃	〃	
	漁 業 経 営 体 数	〃	2,616	2.77	13	平成25年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	
	農 家 人 口（販売農家）	人	37,642	0.77	45	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
	農業就業人口（販売農家）	〃	19,916	0.95	42	〃	〃	
	漁 業 就 業 者 数	〃	3,731	2.06	20	平成25年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	
	自営漁業のみに従事	〃	2,718	2.49	17	〃	〃	
	漁 業 雇 わ れ	〃	1,013	1.41	23	〃	〃	
農作物の作付（収穫）面積と収穫（出荷）量	水 稲	作付面積	ha	785	0.05	46	平成28年産	水 稲 調 査
		収 穫 量	t	2,300	0.03	46	〃	〃
	1)野 菜	作付面積	ha	2,130	0.45	45	平成28年産 （概数）	野 菜 調 査
		収 穫 量	t	40,300	0.31	45	〃	〃
	パ イ ン ア ッ プ ル	収穫面積	ha	316	100.00	1	平成28年産 （概数）	果 樹 調 査
		収 穫 量	t	7,770	100.00	1	〃	〃
	さ と う き び	収穫面積	ha	12,900	56.33	1	平成28年産	甘 味 資 源 作 物 調 査
		収 穫 量	t	937,800	59.58	1	〃	〃
	き く	作付面積	ha	789	16.43	2	平成28年産 （概数）	花 き 調 査
		出 荷 量	千本	279,600	18.47	2	〃	〃
家畜の飼養頭羽数	乳 用 牛	頭	4,310	0.33	34	平成29年2月1日	畜 産 統 計 調 査	
	肉 用 牛	〃	72,000	2.88	9	〃	〃	
	豚	〃	217,200	2.32	13	〃	〃	
	採卵鶏（種鶏を除く）	千羽	1,332	0.76	29	〃	〃	

1) 野菜は全国統一で調査する品目が対象で、ゴーヤー、へちま等は含まれていません。

沖縄の農林漁業主要指標（つづき）

項 目		単位	数 値	全国からみた 沖縄の地位		時 点	資 料 出 所
				シェア (%)	順位		
農業 産出額と生産農業所得	農 業 産 出 額	億円	935	1.05	33	平成27年	生産農業所得統計
	米	〃	5	0.03	46	〃	〃
	野 菜	〃	122	0.51	41	〃	〃
	果 実	〃	57	0.73	35	〃	〃
	パ イ ン ア ッ プ ル	〃	14	100.00	1	〃	〃
	工 芸 農 作 物	〃	196	10.53	4	〃	〃
	さ と う き び	〃	162	59.34	1	〃	〃
	花 き	〃	107	3.03	10	〃	〃
	畜 産	〃	426	1.35	23	〃	〃
	肉 用 牛	〃	187	2.81	9	〃	〃
	豚	〃	120	1.90	18	〃	〃
	鶏	〃	71	0.75	33	〃	〃
	生 産 農 業 所 得	〃	349	1.07	31	〃	〃
（一戸当たり） 農業経営	農 家 総 所 得	千円	3,129	71.53	…	平成27年	農業経営統計調査
	農 業 所 得	〃	689	45.12	…	〃	〃
	農 外 所 得	〃	1,416	96.20	…	〃	〃
	年 金 等 の 収 入	〃	1,024	52.62	…	〃	〃
林業 産出額	林 業 産 出 額	千万円	61	0.14	44	平成27年	林業産出額
	木 材 生 産	〃	4	0.02	46	〃	〃
	薪 炭 生 産	〃	2	..	..	〃	〃
	栽 培 き の こ 類 生 産	〃	55	0.26	38	〃	〃
漁業 生産量	海 面 漁 業 漁 獲 量	t	16,684	0.47	32	平成27年	海面漁業生産統計調査
	海 面 養 殖 業 収 獲 量	〃	15,897	1.49	18	〃	〃
	漁 業 総 生 産 量（計）	〃	32,581	0.71	30	〃	〃
漁業 産出額	海 面 漁 業 産 出 額	百万円	12,670	1.27	26	平成27年	漁業産出額
	海 面 養 殖 業 産 出 額	〃	6,790	1.40	18	〃	〃
	漁 業 総 産 出 額（計）	〃	19,460	1.31	25	〃	〃
漁 船 隻 数		隻	2,933	1.92	21	平成25年11月1日	漁業センサス

注：農業経営（1戸当たり）のシェア（%）については、全国平均の数値に対する比較です。

統計データを見るなら

《各種ホームページの紹介》

農林水産省



【農林水産省 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果が閲覧できます。

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html>

農 林 水 産 部

【沖縄総合事務局 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果のうち、沖縄の農林水産業に関する統計調査結果を掲載しています。

<http://www.ogb.go.jp/nousui/toukei/index.html>

e-Stat 政府統計の総合窓口

【e-Stat 政府統計の総合窓口】

農林水産省も含む、政府が実施している統計調査の総合窓口です。

<http://www.e-stat.go.jp>

ただし、ホームページ上の情報は予告なしに内容を変更又は削除する場合があります。あらかじめご了承ください。

統計データから見た 沖縄の農林水産業

平成29年10月 発行

編集・発行者 内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課
〒900-8530 沖縄県那覇市おもろまち2丁目-1-1
TEL 098-866-0031(代) 内線 83404 83405